

きずな

親の「伝え方」で
ぐんぐん伸びる



非認知能力

「非認知能力」とは、従来の学力や偏差値など目に見える能力（認知能力）に対して、目に見えない能力を総称した言葉で、具体的には大きく「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」に分けられ、学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」にあたる、生きる力の土台となる能力のことを言います。

正解のない現代社会において、自分らしく幸せに生き抜くためには、認知能力だけでなく非認知能力のように「どんな世界でも生きていける力」が必要になると言われています。



保護者だからこそできるプレゼント「声かけ」



お子さんの非認知能力を高め、育むために効果的な「声かけ」【言語と非言語（視覚や聴覚のコミュニケーション）の2種類】を紹介します。

◇ 1つめは、「肯定的に見る」（言語）

（日頃から「肯定的な見方」「肯定的な声かけ」をすることです。）

◇ 2つめは、「保護者がやってみせる」（非言語）

（保護者がお子さんにお手本を見せることです。）

この2種類の声かけを意識することで、お子さんはどんどん変わっていきます。

今回は、非認知能力の一つである自己肯定感を高める「声かけ」を紹介します。



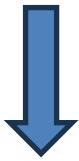
自己肯定感を高める 声かけ3step



まずは、この声かけを保護者の方が自分自身でやってみましょう。自分に対してできるようになると自然とお子さんに対してもできるようになりますよ。

step1

自分・子どもの気持ちを聞く



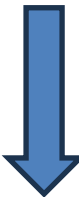
- ・どうしたの？
- ・話したいことある？
- ・今どう感じてるのかな？



何を調べてるの？

step2

自分・子どもの気持ちを肯定する



- ・そんな風に思うのね。
- ・そういう考え方もあるね。
- ・そんなときもあるよ。
- ・いいことがあったんだね。
- ・話してくれてありがとう。



どんな気持ちもその人にとってはそれが正解！

step3

プロセスを認める・質問で次につなげる

- ・よくがんばったね。
- ・どこがよくできたと思う？
- ・うまくいかなかったのはどこだったかな？



どんな答えであっても肯定する！

「親の背を見て子は育つ」ということわざがありますが、お子さんは保護者の言動や行動を観て学びながら成長していきます。まずは、保護者の皆さんが自己肯定感を高めることが大切です。

お子さんと一緒に自己肯定感を高める声かけをしてみませんか。



参考文献 非認知能力を伸ばすコツ 中山芳一

・非認知能力研究の第一人者

・綾部市教育委員会教育アドバイザー

